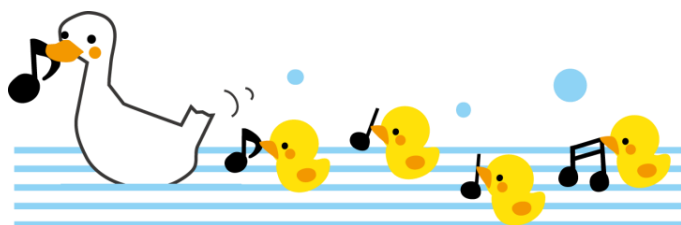


図書だより



2月の花は「梅」。ちょっと早いけど春を告げる「春告草」や、やさしくなびく風を待ちわびる「風待草」という別名があること知っていますか？年初に咲く梅の花は、花の咲く順を兄弟に見立てて「梅は花の兄」とも呼ばれます。ちなみに「花の弟」は菊の異名で、「花の王」は日本では桜とされています。

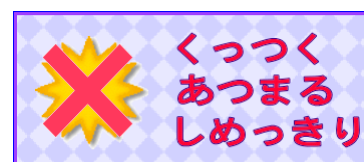
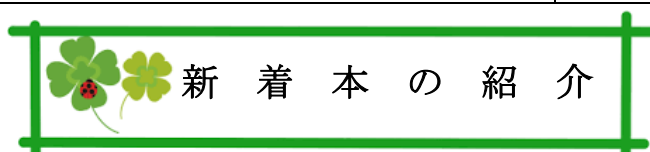
♪梅はア～ 咲いたかア～ ♪桜はア～ まだかいなア～♪



2021年2月 第6号 生野高校 図書部

分類	書名	著者名	出版社
007.3	働き方5.0	落合 陽一	小学館新書
338	すみません、金利ってなんですか？	小林 義崇	サンマーク出版
361.235	ブルデュー ディスタンクシオン	岸 政彦	NHK テキスト
361.454	よけいなひと言を好かれるセリフに変える 言いかえ図鑑	大野 萌子	サンマーク出版
404	へんな科学“イグノーベル賞”研究40講	五十嵐 杏南	東京：総合法令出版
410	大学への数学 2021年2月号	横戸 宏紀	東京出版
491.371	スマホ脳	アンデッシュ・ハンセン	新潮新書
493.49	精神科医が教える ストレスフリー超大全	樺沢 紫苑	ダイヤモンド社
493.81	新型コロナとワクチン 知らない和不都合な真実	峰 宗太郎	日経新聞出版新書
493.95	いのちは輝く わが子の障害を受け入れるとき	松永 正訓	中央公論新社
498.3	免疫力が10割 腸内環境と自律神経を整えれば病気知らず	小林 弘幸	プレジデント社
596.65	サイエンス・スイーツ	太田 さちか他	マイルスタッフ
726	えんとつ町のペペル	西野 亮廣	幻冬舎
726.1	おれにはドーナツみたいな穴があいている	齋藤 真行	愛本出版
728.9	字が汚い！	新保 信長	文藝春秋
743	写真からドラマを生み出すにはどう撮るのか？写真家の視線	高橋 信哉	インプレス
779.14	ゴミ人間 日本中から笑われた夢がある	西野 亮廣	KADOKAWA
818.94	ななな、ななな？熊本弁コース苑	工事部	熊本日日新聞社
913.6	水のかたち(上・下)	宮本 輝	集英社
913.6	三千枚の金貨(上・下)	宮本 輝	光文社
913.6	鳳雛の夢	上田 秀人	光文社
913.6	犯人に告ぐ(上・下)・3	栗井 脩介	双葉社
913.6	みかづき	森 絵都	集英社
913.6	弧宿の人(上・下)	宮部 みゆき	新人物往来社
913.6	オルタネート	加藤 シゲアキ	新潮社

913.6	自転しながら公転する	山本 文緒	新潮社
913.6	お探し物は図書室まで	青山 美智子	ポプラ社
913.6	野良犬の値段	百田 尚樹	幻冬舎
913.6	わたしは愛される実験をはじめた。	浅田 悠介	KADOKAWA
913.6	春季限定いちごタルト事件	米澤 穂信	東京創元文庫
913.6	夏季限定トロピカルパフェ事件	米澤 穂信	東京創元文庫
913.6	秋季限定栗きんとん事件 (上・下)	米澤 穂信	東京創元文庫
913.6	アノニム	原田 マハ	角川文庫
	♥ 高校生のための科学評論エッセンス 「ちくま評論選」・「ちくま科学評論選」 それぞれ 45 冊入りました。授業等でご利用ください。	岩間輝生ほか	筑摩書房



● オルタネート 加藤 シゲアキ(著) 新潮社

高校生限定のマッチングアプリ「オルタネート」が必須となった現代。東京のとある高校を舞台に、若者たちの運命が、鮮やかに加速していく。全国配信の料理コンテストで巻き起こった“悲劇”の後遺症に思い悩む蓉。母との軋轢により、“絶対真実の愛”を求め続ける「オルタネート」信奉者の風津。高校を中退し、“亡霊の街”から逃れるように、音楽家の集うシェアハウスへと潜り込んだ尚志。恋とは、友情とは、家族とは。そして、人と“繋がる”とは何か。デジタルな世界と未分化な感情が織りなす物語の果てに、三人を待ち受ける未来とは一体……。

● お探し物は図書室まで 青山 美智子(著) ポプラ社

お探し物は、本ですか?仕事ですか?人生ですか?悩める人々が立ち寄った小さな図書室。不愛想だけど聞き上手な司書さんが思いもよらない選書と可愛い付録で人生を後押しします。ほっこり～。

● 野良犬の値段 百田 尚樹(著) 幻冬舎

突如としてネット上に現れた、謎の「誘拐サイト」。〈私たちが誘拐したのは以下の人物です〉という文言とともにサイトで公開されたのは、6人のみずぼらしい男たちの名前と顔写真だった。果たしてこれは事件なのかイタズラなのか。そして写真の男たちは何者なのか。半信半疑の警察、メディア、ネット住民たちを尻目に、誘拐サイトは“驚くべき相手”に身代金を要求する——。日本全体を巻き込む、かつてない「劇場型犯罪」が幕を開ける!

● すみません、金利ってなんですか? 小林 義崇(著) サンマーク出版

金利・源泉徴収・社会保険・〇〇組合……銀行の種類・日経平均株価・定期預金・共済・住宅ローンを組むとは?・
 国債=国の借金を買うって? などなど

お金知識ゼロの編集者が元国税専門官にわかるまで聞いた!超基礎から意外と知らないお金の話まで、実生活で見聞きするお金のことがざっとわかる!

2022年度から施行される新学習指導要領では、資産形成指導の一環として「投資信託」に関する高校家庭科の授業が導入される予定だ。老後2,000万円問題や人生100年時代など、老後のお金に関する心配事が尽きない昨今。高校生への投資信託の教育は、日本人の金融に対する考え方にどのような影響を与えるのだろうか。

●働き方5.0

落合 陽一 (著)

小学館新書



「社会の前提」は、すべて変わった。「コロナ」によって、社会の前提がすべて変わった。

2020年、我々の「働き方」は大変革を迫られた。リモートワークによって使える人的・時間的リソースが限られる中で、「やるべき仕事」が自ずと抽出されてきた。無駄な会議、出なくてもいいミーティングは排除され、ビジネスチャットやビデオ会議などテクノロジーで解決できることはそれに任せることが増えてきた。そして、「リモートワークのみで済む人材」への置き換えも始まりつつある。

では、「人間がやるべき仕事とは何か」——コンピュータやAIが進化した今、私たちはこの命題に直面している。ウィズコロナ、そしてポストコロナの世界では、それがいっそう問われることになる。

機械では代替できない能力を持つ人材=「クリエイティブ・クラス」として生きていくには、社会とどう向き合うべきなのか。落合陽一氏のロングセラー『これからの世界をつくる仲間たちへ』をアップデートして新書化。

●自転しながら公転する

山本 文緒 (著)

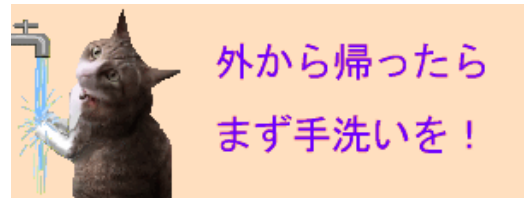
新潮社

結婚、仕事、親の介護、全部やらなきゃダメですか？ 共感と絶賛の声続々！ あたかなエールが届く共感度100%小説！

東京で働いていた32歳の都は実家に戻り、地元のモールで店員として働き始めるが…。

恋愛、家族の世話、そのうえ仕事もがんばるなんて、そんなの無理！

答えのない問いを生きる私たちがやさしく包む物語。



●三千枚の金貨 (上下)

宮本 輝 (著)

光文社

新進文具メーカー役員の新木光生(さいきみつお)は、五年前に入院したとき、末期ガンの患者から不思議な話を聞かされた。和歌山県の山にある桜の巨樹。その根元に三千枚の金貨を埋めたという。「みつけたら、あんたにあげるよ」と言われた記憶が蘇り、会社の仲間の宇都木(うつぎ)、川岸(かわぎし)の二人に話をするが、別の怪しい男たちも金貨を探していることに気づく。金貨は本当に存在するのか!?

新木(さいき)たち三人の男に、謎に拘(かか)わる女性・室井沙都(むろいさと)を加えた四人は「宝探し」を進めていき、和歌山の地に辿り着く。その過程で、金貨を埋めた男・芹沢由郎(せりざわよしろう)の数奇な人生が、彼らの前に浮かび上がる。闇の世界に君臨した芹沢の哀しい思いと、満開の桜の花のイメージに突き動かされた人間たちの縁(えにし)。金貨が語る膨大な物語の結末で、彼らが手にできたものは何だったのか。

●スマホ脳

アンデッシュ・ハンセン (著)

新潮新書

スティーブ・ジョブズはわが子になぜ iPad を触らせなかったのか?

・わたしたちは1日平均2600回スマホに触り、10分に1回手に取っている ・現代人のスマホのスクリーンタイムは1日平均4時間に達する ・スマホのアプリは、最新の脳科学研究に基づき、脳に快楽物質を放出する(報酬系)の仕組みを利用して開発されている ・10代の若者の2割は、スマホに1日7時間を費やしている ・1日2時間を超えるスクリーンタイムはうつ病のリスクを高める ・スマホを傍らに置くだけで学習効果、記憶力、集中力は低下する ・世界のIT企業のCEOやベンチャー投資家たちの多くは、わが子のデジタル・デバイスへのアクセスを認めていないか極めて厳しく制限している ・フェイスブックの「いいね!」の開発者は、「SNSの依存性の高さはヘロインに匹敵する」と発言している etc, etc...

(10代の若者ではない私も、スマホを忘れていたらソワソワして落ち着かない。早く家に取りに帰りたくなる。完全に依存している!)

●おれにはドーナツみたいな穴があいている 齋藤 真行 (著) 愛本出版



「おれにはドーナツみたいな穴があいている。おれはこの穴をふさぎたい。自分の中が寒いから・・・」

「おれ」は自分の穴をふさごうと、いろいろなことを試みます。おいしい食べ物、人からの賞賛、友達との遊び、恋愛、趣味・・・。

「おれ」は自分にポッカーリ空いた穴をふさいで、寒さとさびしさから逃れることができるのでしょうか・・・。

多くの人が「消えないさびしさ」、「虚無感」、「なにをしても満たされない心の空白」を覚えています。

こういった気持ちがあまりに強くなると「もう死んでしまいたい。この世から消えたい」とさえ、思うようになります。

どうしたら心の穴がふさがって、幸せになることができるのか、わかりません。

心に空いている、冷たい風（無意味感、無力感、無価値感）が吹き通っていく「穴」は、どうすればふさがるのでしょうか。消えることがない悲しみやさびしさと、どう向き合えば、道が開けていくのでしょうか。

ちょっと変わった、ドーナツのような「おれ」が懸命に「心の穴」に向き合い、新しい道を見出して、立ち上がっていく姿を描いている小さな物語。自分の心に「ふさがらない穴」があることを感じながら、孤独感や虚無感と闘っている、多くの方々に読んで頂きたい〈大人のための絵本〉です。

●ブルデュー ディスタンクシオン 岸 政彦 (著) NHKテキスト 100分で名著 2020年12月

趣味と階層はなぜ結びつくのか？

「文化資本」や「ハビトゥス」といった概念を用いて、社会の仕組みを徹底的に解剖してみせたブルデューの主著。なぜ音楽の好みは人によって異なるのか？ 話し方や立ち振る舞いの「くせ」はどこから生まれるのか？ 精緻な理論と調査に基づく知の金字塔を、気鋭の社会学者が平易に解説する。

●ヘンな科学“イグノーベル賞”研究40講 五十嵐 杏南 (著) 東京総合法令出版

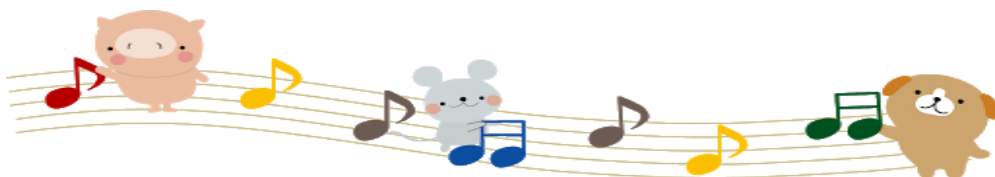
笑える科学 “イグノーベル賞” から、40の受賞研究を紹介！

「なぜバナナの皮を踏むと滑るのか？」 「バッタはスターウォーズを観ると興奮する」

「人間をやめてヤギになったデザイナー」 etc……

人々を笑わせた研究を称える「イグノーベル賞」。その研究内容のユニークさから、毎年行われる授賞式は科学に馴染みのない人からも注目を集める。本書では、そんなイグノーベル賞の受賞研究から最新の「笑える」科学ネタを厳選。ときには自らを実験台にし、ときには何十年も同じ研究を続け、私たちに身近な疑問をとことん追求。

本家のノーベル賞とは一味違った、肩の力を抜いて楽しめる科学をお楽しみください！



♥ これで今年度の「図書だより」はおしまいです。返却期日が過ぎている本をお持ちの方は、一旦返却してくださいね。それから、リクエストは随時受け付けていますが、購入はもう少しお待ちください。(次年度4月以降の予定) ♥